

問題提起「邪馬台国は吉備だった」

日本先史古代研究会会員 前田忠興（広島在住）

（一）古代王権は吉備が発生の地・・・記紀（正史）は抹殺した

先史究明を志す者は記紀に書かれた「天孫降臨説」を信じるものはいないと思う。これは「天皇」を現人神（あらびとかみ）とすることによって成り立つ「神話」である。唯物史観の始祖の言葉に「全てを疑え」という言葉もあり、私は「神話」であり遙か後に創作された虚構である。記紀に自らの論拠を求めることを恥とし全く認めない。

広島に住んで異なる私は吉備人の感性には博ms人と異なり容易には理解できない独特な思い方があることを感じます。「天皇」に関してですが、王権体制が当初は吉備にあった事実を逆に論証することにも継り。吉備邪馬台国説を補強することにも継ると思われることですが古い「天皇」に対する独特の親しみがあることを感じます。

秦氏一族の流れが邪馬台国を支配し指導していた時期が当初にあったことは、吉備＝岡山とする狭義の吉備以外にも秦氏一族の足跡が数多く残っていることから明らかであり、吉備や広義の邪馬台国一円に無数の史跡が残されていることから明らかです。私は明らかな現実を根拠に事実を主張する者であり、作られた「記紀」史観に論拠を求めることは、ここでも拒否します。それは唯物史観の始祖が指摘した「不可知論」に継ることであり、それこそじゃれごとで終わってしまい、唯物史観の始祖が厳しく批判し否定した何の結論も求めようとしない、際限ない「討論クラブ」に終始するからです。

全ての吉備人に謂れのない「元祖風評」をきっぱり否定する気概が、深い根底にあることを感知する私は「元祖風評」を社会的にも克服否定しそこから解放された社会の出現を求めるものです。

そこに社会を変える真実の歴史家の使命があると確信しています。

（二）吉備族＝秦一族は抹殺された

飛躍がありますが原子力の「平和利用」という言葉が、最初の被爆地である広島の人をも原発容認に動かしたように、奈良時代に絵にもなり清廉大人を地で行くような立派な人物像に加え聖徳太子という名は体を表す立派な名前迄与えられた架空の人物が必要上神話上に作られたと思います。

「大化の改新」という大仕掛けを表わす名の下に歴史から抹殺された一族は、実は公にされている蘇我一族ではなく秦一族ではなかったか。という妄想とも思われる疑念を思いつきました。空想癖が過ぎたのかとも思っていますが、この疑念はあれだけの影響を与えた秦氏一族に対する記述が「記紀」に殆どないことから生じています。聖徳太子「像」は案外復古後の明治になってつくられたものではないかという疑念が新たに生じました。時代的に何時頃の「記紀」から聖徳太子像が出現したかを調べることもありと思いますので提案させてください。英明な諸兄の御力で御明解を願っています。敢えてここで疑念として提起いたします。

編者追記 24年度の日本先史古代研究会の定期総会・講演会のフリートークで前田氏の冒頭の問題提起は岡山県に在住する多くの会員に強い共鳴を呼んだ。氏にお願いして寄稿文を寄せて頂き、当日参加出来なかった会員の皆様にとの思いで掲載させて頂きました。